

2012. 4 VOL 49 おいしいおとうふを求めて

社長のひとり言 こんにちは！株式会社手造り屋 社長の岩崎勉です。

おとうふ日和

おとうふは、どんな薬よりも勝るもの。

そのままよし、煮てもよし、焼いてもよし。本物の食はすぐそこにありました。

こころの時代 油絵から学ぶ

今月は日和を書いて49枚目になります。そして、この間も心をこめて商品をつくり、大豆の一生を理解しながら、商品造りをしてきましたその中で、難しいと思いました。

「こころ」を考えて見たいと思います。私も油絵をはじめて10年近くになりますが、食と同じことが言えると思つねづね思っていました。先生もそう言っています。

●今書いている、山形県の上山温泉「古窯」の正面に活けてあった、べに花が綺麗で目についたので、(我が町桶川も べに花の町です)今書いています。



左が前回70% 右が今回80% 写真ではよく解りませんが、かさねて絵具を塗り、またかさねて絵具を塗り、見えないところに何重にも、絵具の色、違った色。また違った色が何重にもかさなって深みがでてきます。これが書いた人の個性が入り、このこころを、入れれば入れるほど見た人に感動を、10年で少し理解しかけてきました。

●豆腐づくりもすっかり同じことが言えます。

素材を良くしても、「土地の地力をあげて品質のよい大豆をつかって」「湧水のように質のよい水をつかって」「添加物もいっさい使わず」「人の手で丁寧に」つくっても足りないもの、「こころ」と解りかけてきました。

素材と人のこころ「相対的こころ」素材と人が相対関係にありながらなかなかひとつになれないところに、難しさがあると思ひました。

●こころのありかたを、見えないところにも意識をもち、経験と本質を理解することに、手づくりやさんの、職人として頑張っていきます。



ほほ笑み 製品のひとつです